

## はらんべえ・れお

## ご挨拶

歳月の節目というものは、わたしたちに新たな気持ちや希望を与えてくれます。今年、KESTESは1983年に発足してから30周年をという大きな節目の年を迎えましたが、これまでKESTESが一年一年積み重ねてきた歴史の重みを深く感じております。あらためてこれまでKESTESのために尽力されてきた諸先輩方への尊敬の念を抱くとともに、これまでわたしたちの活動を温かく見守り、応援して下さった支援者のみなさまに心より感謝申し上げます。今後も教育を通して生徒ひとりひとりが夢を実現することを支え、ケニア社会のよりよい発展により一層貢献できるよう努力して参ります。今後のKESTESのますますの発展を祈念するとともに、みなさまからの変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

KESTES 委員長 藤城友昭 (H23-4)

## 30 周年に寄せて

ケステス日本窓口の代表をしている金田健一 (H12-2理数科教師) です。もともとは中学校の理科教師志望でしたが、ケニアに行って初等教育の大切さを実感したこともあって、現在は埼玉県で小学校の先生をしています。

私の任期終了直後(平成14年12月)に大統領選(モイ→キバキ)を控えて私の派遣当初隊員が98名いたのが12名まで減りました。理数科教師に限ると、40名近くいたのが、2名とケステス存続の危機で、解散や凍結の手続きを決めたのは私達の時代です。

そんなケステスが、世代をこえて30周年を迎えられること嬉しく思います。前々回の大統領選の混乱で、実際に凍結→解散となってしまうしましたが、その後復活し現在に至っているのは本当にすごいことだと思います。30年間関わってきたすべての隊員、関係者に感謝したいです。

さて、みなさんも経験があるかもしれませんが、隊員時代に、奨学生の家には保護者のサインをもらいに行きました。「おもてなし」という言葉が今年流行語になっていますが、きっとケニアにも共通する考え方があると感じました。奨学生ですから貧しいはずなのに、ご馳走を用意してくれたり、お土産物(kuku)をくれたり…。感謝の気持ちを、精一杯のおもてなしで用意してくれる、そんな人々の優しさを肌で感じられたケニアがとても懐かしいです。



KESTES 奨学生私(右)と宇都宮隊員(12-2理数科教師)で、奨学生の  
家からもらった鶏をさばいている様子。「ケニアでは鶏肉が売ってい  
なくて、鶏をさばくしかないんだよ…」と話をするときに見せる写真

ケステス日本窓口代表 金田 健一 (H12-2理数科教師)

# KESTES 30 年の歩み

| 西暦   | 月  |                                                                                                                                 |
|------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1974 |    | 理数科教師隊員派遣開始                                                                                                                     |
| 1983 | 8  | 理数科教師隊員会議にて提案され、有志によりKenya Science Teacher's Scholarship (KESTES: 青年海外協力隊在ケニア理数科教師有志による奨学金制度)の活動を開始。                            |
|      | 10 | 第1回目奨学生3名が選出される。                                                                                                                |
| 1984 |    | 選出された奨学生3名に対し、奨学金支給を開始。                                                                                                         |
| 1985 | 7  | はらんべえ・れお創刊。<br>奨学生選考試験開始。<br>Kenya Students' Educational Scholarship (KESTES: 在ケニア協力隊員有志による奨学金制度)に名称変更。<br>日本人会バザー初参加。          |
| 1994 |    | 選考試験を書類選考に変更。                                                                                                                   |
| 1998 |    | (理数科教師隊員のキシイ・マクエニ地区派遣開始)                                                                                                        |
| 1999 |    | (ケニア在住OB・OG会発足)                                                                                                                 |
| 2002 |    | 大統領選挙に備え隊員派遣人数減、KESTESの活動凍結または解散を検討。                                                                                            |
| 2003 |    | 理数科教師隊員が2名にまで減少し、KESTESの活動停滞。                                                                                                   |
| 2004 |    | 隊員派遣人数回復                                                                                                                        |
| 2008 |    | 大統領選挙後の騒乱により隊員のケニア国内が活動停止。KESTES解散が決定。                                                                                          |
| 2009 |    | 寄付金を日本窓口へ預け活動を停止。                                                                                                               |
|      | 9  | ふれあい祭りの際に募金を募り活動を再開。                                                                                                            |
|      | 11 | 新生KESTESとして活動を開始。                                                                                                               |
| 2011 |    | KESTES(ケニア)のホームページ開設( <a href="http://jocvkestes.wordpress.com/">http://jocvkestes.wordpress.com/</a> )<br>日本窓口をJICA地球ひろばに団体登録。 |
| 2012 |    | オリジナルTシャツ、ポロシャツを製作。<br>KESTES facebookページ開設。                                                                                    |
| 2013 |    | KESTES 結成 30 周年<br>累計奨学生数 350 名突破！(累計 352 名)                                                                                    |

# 奨学生成績発表

モイ・ティベリアス

Maranda High School

- Form 4
- 卒業年次の為、  
3 学期成績なし



オデロ・ファレシュ

Maranda High School

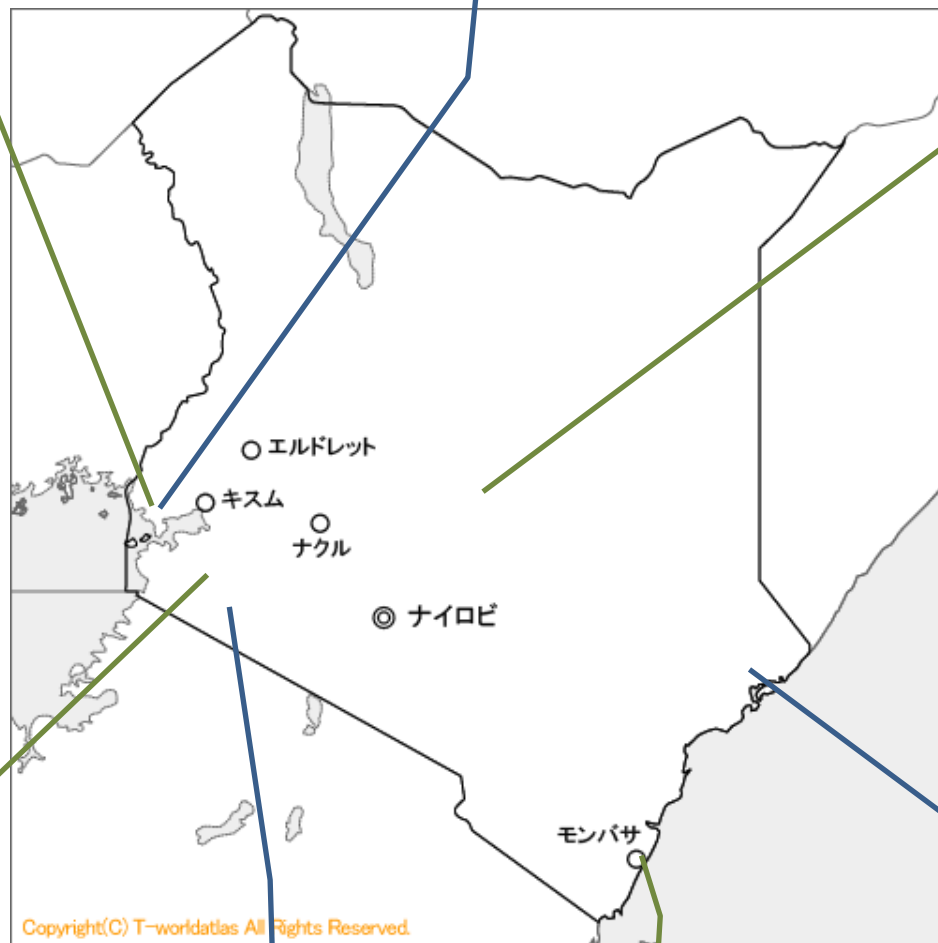
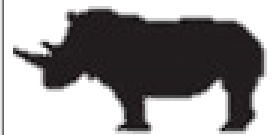
- Form 3
- B
- 101位/462 人



ボニファス・ムイカ

Kaaga Boys Secondary School

- Form 2
- B
- 13 位/164人



オチング・ティベリアス

Orero Secondary School

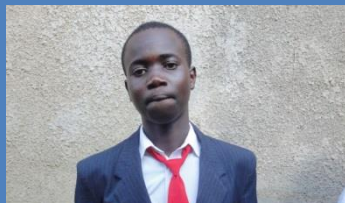
- Form 1
- C+
- 201位/302 人中



デイビッド・クリントン

St. John's Seminary Rakwaro

- Form 3
- B-
- 2 位/32 人中



ファトゥマ・モシン

Memon High School

- From 1
- B
- 43 位/124 人中



チャロ・レミック・トーヤ

Majenjeni Secondary School

- Form 3
- B+
- 3 位/33 人中



## 奨学生との食事会を開催！

12月7日、ナイロビで KESTES メンバーと奨学生 6 名が集まり食事会を開催しました。

韓国料理とケニア料理を食べながら、普段の生活や日本とケニアのこと、将来のことを語り合いました！初めて見る韓国料理を恐る恐る食べる子供たちでしたが、普段食べ慣れたウガリの方が好きだったようです。



奨学生全員に、今後の勉学に励むことを祈願して KESTES ボールペンを、今年で KESTES を卒業するモイ君には KESTES T シャツがプレゼントされました。来年も彼らが勉強を続けられる環境を作るため、KESTES メンバー一同頑張ります。

(H23-4 南波隊員)

## KESTES☆新メンバー加入！！

2013 年 10 月に 8 名の隊員が新しく KESTES に参加しました。以下、新メンバーを紹介します。

- 上西はるか(コミュニティ開発)
- 石川智也(障害児・者支援)
- 千葉洋平(林業・森林保全)
- 堺田真隆(環境教育)
- 浜岡由衣(保健師)
- 黒田真代(コミュニティ開発)
- 松本崇広(青少年活動)
- 黒川陽樹(村落開発普及員)

## 2013 年度会計

|    |                |
|----|----------------|
| 収入 | KES 625,293.95 |
| 支出 | KES 694,387.75 |
| 差額 | -KES 69,093.80 |

残高 KES 432,248.70  
US\$3,916.47

(2014 年 1 月 4 日現在)



## 2014 年活動計画

多くの方々の温かい支援のおかげで設立 31 年目を迎えることが出来ました。今年も KESTES は活発に活動を行っていきます！

- 1 月 KESTES 総会  
守童バザー(日本人学校)出店
- 4 月 KESTES 総会
- 7 月 SOTOKOTO マラソン出店
- 8 月 KESTES 総会
- 9 月 日本人学校ふれあい祭り出店
- 12 月 奨学生との交流会

**KENYA** ★  
**STUDENTS'**  
**EDUCATIONAL**  
**SCHOLARSHIP**  
run by Japan Overseas Cooperation Volunteers



# KESTES OB からのメッセージ

## 菊地正明 OB (S63-2 隊理数科教師)

現 KESTES の運営委員のみなさま、活動 30 周年、おめでとうございます。OB として、また微力ながら活動に協力している日本窓口のメンバーとして、大変嬉しく誇りに思います。

私がケニアにいた 1990 年頃は、理数科教師隊員が 50 人以上派遣されていた気がします。KESTES もその職種の隊員だけで運営していました。選考で喧々ごうごう議論したり、財政をどうするかアイデアを出し合ったり、また、KCSE の実験対策の情報共有も行っていました。恐らく、今も課題や悩むところは同じなのではないでしょうか。

最近の印象は、企画力が我々の頃と比べ向上しているなと感じています。例えば、奨学生との交流、イベントにおける募金活動、オリジナルグッズの制作など。”生徒たちへの情熱”や”楽しみながらやる”という姿勢は今も昔も変わらないと思いますが、工夫の凝らし方やアイデア、表現力がすばらしいと感服しています。

奨学生も延べ 500 人を超えたようですが、生徒たちは面倒を見てくれた隊員のことをどう思っているだろうか、と考えてしまいます。彼らがケニアの人材育成という理想に関与していなくても、一人ひとりが自分と隊員だけの物語をきっと持っているのでしょうか、それを大切にして人生を送ってくれていると嬉しいです。

これからもこの活動が永遠に続くことを祈っています。そのために、自分ができるサポートを続けていきたいと思います。委員のみなさん、そしてこれから協力隊に応募し、現地で委員として協力していただけるまだ見ぬみなさん、よろしくお願いいたします。

最後に、この活動に賛同し募金をしていただいた全体的みなさまに感謝申し上げます。



(追記)

今年の正月 23 年ぶりに任地へ行ってきました。当時 5 歳だった坊主(握手をしている手の下の子供)が立派な青年(黄色いつなぎ)になってトラクターの運転をしていました。隣の小学校の仲のよかった先生は教会を建て、代表になっていました。

「Masaaki!、Masaaki!」と名前を憶えてくれていたのには大感激。まさにうるるん旅行記です。残念だったのは一番親しくしていた生徒がマラリアで亡くなっていたこと。お母さんはまだ元気でしたが、住んでいた生徒の別棟はそのまま残っていて、泊まったことなどを思い出しつつ冥福を祈りました。みなさんも出会いを大切に下さい。



## 黒田孝伸氏

### (S59-3、理数科教師、現開発援助コンサルタント)

キホメ高校着任8か月後の1986年1月、まだ幼さの残るキホロ君達、新1年生を迎え、クラス担任となりました。キホロ君の突出した優秀さにはすぐに気づくと共に、2年生になり授業料未納による自宅待機で、彼の家の貧しさを知ることになりました。担任として看過できず、2年時の授業料は当方が負担し、3・4年時はKESTESを得て無事に高校を卒業しました。印象的だったのは校長や上級生や村人からのキホロ君への支援に対する当方への感謝の言葉でした。彼は誰もが誇る「キホメ村の宝」だったのです。

先日、久しぶりに電話で話しました。キホロ君は2007年にJKUATで博士号を取得し、現在数学、統計の講義を行う一方、JKUATが開講しているインターネットを活用した遠隔教育プログラムの管理責任者を

務めています。同プログラムは有料ですが、安価な費用でケニア内外の学生に学位取得の機会を与えているようです。更に MOOC (Massive Open Online Course) を無料で提供している米国の大学との連携を検討しているそうです。

かつて貧困を理由に教育機会を奪われかけた多くの優秀な青年たちを奨学金が支えました。そして、現在、インターネットにアクセスできれば、途上国の貧しい青年たちも世界最高水準の大学教育を「無料」で受講でき、成績優秀者には更なる可能性が広がっています。貧困の壁を越え、青年たちの潜在的可能性を拡大する遠隔教育プログラムに今後もキホロ君が関わっていく姿を遠くから応援したいと思っています。

## 竹尾敬三 OB (S52-3・稲作指導)

「おめーら!」、えっ?

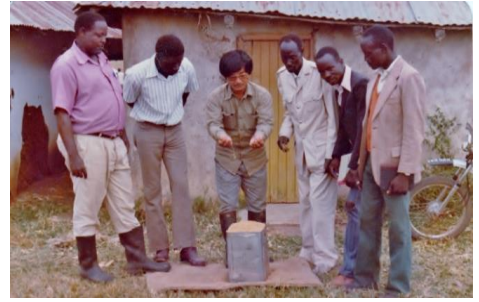
私が当時住んでいたのは、ケニア西部、サウスニャンザ州のビクトリア湖に面したホマベイという町でした。1978 年の 4 月から 3 年間過ごしました。そこはルオー族という部族多く住むところで、「オメーラ」というのは、ルオー語で「私の友達」ということです。つまり、友人に呼びかけられたところだったのです。

現地赴任時には、私の住む家は準備されていなくて、アメリカンピースコーの住む家に今でいうルームシェアをさせてもらいました。3LDK で彼ら 2 人と私の 3 人で住みました。3 か月位経ったある日、家に帰ってみると、自分の部屋の中の多くの物、ラジカセなどが紛失していました。泥棒に入られたのです。そこで、近所の子供たちに「盗んだ人は絶対に見つかる。」「私の友人は警察のお偉いさんだ。」と言い広めてみました。すると2週間くらいしたある日、玄関の前に盗まれたものがきちんと揃えて置いてありました。もちろんラジカセも。なんと純情なのかと逆に驚いてしまいました。本当に戻ってくるとは思ってなかったのですから。

稲作の普及指導が主の仕事でした。町の近くのシャンバ(田圃)で稲作をしているところがあり、そこによく出かけました。友達もできたので、気楽に行ける場所でした。

2010 年 12 月に 30 年ぶりに同地を訪れました。

友達も元気だったし、驚いたことにお母さんも大変元気でした。いったい何歳になったのか? 今でもメールでつながっています。



## Newデザイン-アフリカ大陸デザインTシャツ-発売開始!

JOCVケニア隊OG(H21-3武田美穂隊員)による新デザイン!!

日本でも普段着として着れるおしゃれなTシャツです。

### ・新デザインTシャツ1枚 1,000 Ksh

※後ろ首下にKESTESのロゴが入ります。

アフリカ大陸のデザイン!!



## I♥KENYAボールペン、オリジナルTシャツ、ポロシャツも発売中!

・I♥KENYA-ボールペン 100 Ksh

・オリジナルTシャツ 1,000 Ksh

・ポロシャツ 1,200 Ksh





## ケステスとの出会いから今日まで

今年、ケステス発足 30 周年とケニア独立 50 周年が重なったことだけでなく、ジョモ・ケニヤッタ農工大学・上級講師からケニア協同大学・応用統計学准教授への私の昇進が重なったのも奇遇なことです。

振り返るといつも、謙虚な思いを抱きます。ケステスがもたらしてくれた影響はとても大きなものでした。当時、物理の担当だった黒田孝伸先生（S59 年度 3 次隊・理数科教師）の推薦によって、私がケステスの奨学生となってから実に 27 年が過ぎました。先生は個人的にも私の中等教育を支援してくれていましたが、それに加え、ケステスからの奨学金は大きな力となりました。

先生は、私が中等教育をきちんと終えられるよう尽力してくれました。1986 年、セカンダリー 3 年目（高校 2 年生相当）のとき、ケステスの奨学生として私を推薦する前に、先生は私が 1・2 年生のときに払いきれなかった学費分を清算してくれました。それだけでなく、先生のボランティア任期は 1987 年まででしたが、私が奨学金をその後もきちんと受け取れるよう手配してくれ、さらに 4 年生分の学費も前もって支払ってくれたのです。

こうしたことの恩恵は私だけでなく、私の周りにも明らかな影響をもたらしました。経済支援により、ケステスは天国への門を開いてくれました。当時、私の父には、8 人いる子どもたちの一人にだけでも教育を受けさせるような余裕はありませんでした。8 人兄弟のうち、私は初等教育を修了した最初の子どもであり、それゆえに一番に教育面の困難に面することになったのです。私が 2 年生の 1、2 学期を終えた 3 学期の途中から、両親は親戚、役所、他の組織へ、また友人へ経済的支援をお願いして回ることとなり、それは彼らにとって大きな負担でした。そして 1986 年の 6 月に、私は泣く泣く学校を辞めざるを得ませんでした。

学校を辞めたあと、他の少年たちがやっていた不良行為に加わることもできましたが、その結果がどうなるかくらいは想像できました。私がすることにしたのは、今でいわれる、いわゆる児童労働です。食堂の料理人として働き始めましたが、給料はあいまいなものでした。月の終わりに支払いがあったかどうか、覚えていません。幸いなことに、先生はすでに私が彼の物理の授業を欠席していることに気づいていました。最初に先生は私のクラスメートのウィルソンを寄こし、両親と私と彼で三者面談をしないと伝えてきました。料理人の仕事のため、私はそのとき家を離れて違う村にいましたが、先生に会うため、翌週すぐに家に帰りました。先生はバイクに乗って私の家に現れ、私と長い長い話をしたあと、私の通訳を通じて両親と話しました。先生は、私が学校へ戻れるよう手を尽くす、と約束してくれたのです。

その翌週、新たな気持ちで学校に戻りました。学期終わりに初めてクラスのリーダーになったような気持ちで、とても誇らしげでした（残りの学期には、1 年生から 4 年生までのまとめ役をすることになったのですが）。先生もとても喜んでくれ、すぐに私がケステスの奨学金試験を受けられるよう手配してくれました。4 枚のテストを受けたことを覚えています——受験者の中で、数学で私が一番の成績だったことも。いま、私が数理統計学の権威といわれている理由がおわかりでしょう。この手続きは 1987 年に行われましたが、先生はシリアの首都、ダマスカスでの次の仕事へ移る前に、1988 年分の私の奨学金をきちんと手配していつてくれました。

ケステスは中等学校 3 年生分の学費をすみやかに清算してくれ、もはや経済面での心配はなくなりました。先生がすでに 4 年生分の学費を払ってくれていたからです。当時の新教育システムへの移行により、4 年生に合格することは同時に自動的に大学に上げられることを意味しました。驚いたことに、私は大学に上げられる 3,990 人のうちの一人だったのです。私はケニヤッタ大学に入学し、1995 年に主席で数学教育の学位を取りました。一年後、ケニヤッタ大学からの奨学金を受け、私は 1998 年に数理統計学の修士号を取得しました。その後は 2000 年に指導研究員としてジョモ・ケニヤッタ農工大学に入ったのち、2005 年には同大学にて、ドイツ学術交流会の奨学金を受けて数学博士号を取得することができました。

ケステスによる家族や地域への影響は、私の兄弟を見てもわかります。私の兄は経済的理由から初等教育を受けることは叶いませんでしたが、それは単に彼が年長だったからということだけで、運がなかったとしかいえません。私が大学に入ったとき、妹はちょうど中等学校に入ったばかりでした。奨学金を節約した少しばかりのお金と休日のアルバイトのお金で、妹の学費を払うことができました。これもケステスのおかげです。かいつまんでいうと、ケステスと黒田先生に出会えたことで、貧しかったキホロ一家はこんなに成長することができました。

1. J.M.キホロ教授（私のことです）—— ケニア協同大学・応用統計学准教授  
2014 年の 3 月から、正式に赴任予定。
2. メアリー.W.キホロ——エジヤトン大学卒業、教員。教員組合とも協働。
3. アガサ.W.キホロ——KCA 大学卒業、商学部学士。公認会計士。
4. バシリオ.K.キホロ——ケニヤッタ大学卒業、教育学士。ケニア政府上級刑務官。

ここに挙げていない兄弟も、多大な恩恵を受けています。



いまや、みなさんにもおわかりでしょう。一個人への小さな投資と思われたことが、家族全体、そして社会へも、大きな変化をもたらしたことを。先生とケステスは、直接的にも間接的にも、国家に利益を与えてくれたのです。

最後に、心からケステスに感謝し、この投稿を終わりにしたいと思います。ケステスに出資されているみなさん、もし出資を辞めることなんてお考えになったら、ぜひこの事業がもたらす恩恵を今一度考えてみてください。

ケステスよ末永く、JOCV よ末永く。ありがとうございました

ジョン.M.キホロ(元ケステス奨学生／ケニア協同大学・応用統計学准教授)

## 希望をくれたケステス

この寄稿を通じて、再びケステスとの関わりを持てたことを大変嬉しく思います。思い返せばあの困難な日々のなか、僕の学問への意欲や将来への希望は、夢のまま消えてしまっていたかもしれません。ケステスは僕に、新しい希望に満ちた人生、そして学問への情熱をもたらしてくれました。

### 【最初の思い出】

あの日、日本人の男の人や女の人が学校にやってきたのを覚えています。そのあとすぐ、僕ともう一人の女の子が担任の先生に職員室へ呼ばれました。めったにない出来事に僕の胸は高鳴っていました。短い自己紹介が済んだあと、僕たちは作文を書くように言われたのです。審査の結果、優秀だった人は奨学金が受けられるということでした。候補者のなかでの競争です。作文を含めた審査の間に、博子と彼女の友達が僕の家に来て写真を撮っていったので、僕の家族や友達、村のみんなが僕のことを「日本の子」と意識するようになりました。

### 【支援】

ケステスがたくさん教科書をくれて、人生で初めて自分だけの教科書を持つことができました。教科書をもらったのはカカメガ(ケニア西部の地名)での面会のときだったと思います。新しい制服と靴までもらえて、大きく勇気づけられた僕は、テストで好成績を出して恩返しするぞと心に誓いました。ヒロコ※1は時々僕の様子を見に学校に訪ねてくれ、また先生たちも僕のサポートを積極的にしてくれ、KCSE※2の受験を約束してくれました。

※1 小野博子さん(21年度 3 次隊・村落開発普及員)

※2 Kenya Certificate of Secondary Education の略で、ケニアの全国統一中等教育修了試験。日本のセンター試験にあたる。

### 【希望復活】

滞納していた学費と、これからの分の学費が清算された日、それは僕にとって「希望復活の日」です。自分が KCSE を受けられるなんて想像もしませんでした。僕の家族には、とても受験費なんて出せませんでしたから。僕は大学に入るためだけでなく、KCSE で高得点を出すことを狙って勉強するようになりました。

### 【夢に向かって】

いま、僕は経済部商学コースの学位を取るための授業を受けています。僕の夢は生き続けています——いつか海外に留学し、もっと勉強を続けたい。そしてできれば、もうひとつの夢、パイロットになるための訓練を受けられたら。

### 【今後の願い】

ケステスのみなさんには、ぜひ、より多くの貧しい子どもや孤児の支援を、そしてできれば高等教育のレベルまで、広げてほしいと願っています。たくさん子どもたちがこの事業から恩恵を受けられるように、僕もいつか、自分のお金をケステスの資金として提供できれば幸いです。

“ケステスよ末永く。あなたは希望、おなかを空かせた人への食べもの、渴いた人への水—— 祝福そのものです”

敬意を表して

Samba.W.Kennedy(元ケステス奨学生)

Kenya Students' Educational Scholarship

KESTES委員32名・奨学生9名(2014年1月現在)

HP: <http://jocvkestes.wordpress.com> 問合せ先: [kesteskenya@gmail.com](mailto:kesteskenya@gmail.com)

FB: <https://www.facebook.com/pages/KESTESKenya-Students-Educational-Scholarship/33736112628772>

文責:横山裕司(24-3)、米満愛美(24-3)